

院長からのメッセージ

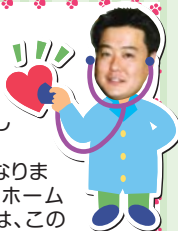
院長 石黒英昭

こんにちは。暖かくなり過ごしやすい季節になりましたね。

当院も平成12年7月に開院して、今年で10年になります。この10年目を機に兼ねてから要望のあったホームページの開設とトリミングを始めました。詳しくは、このニュースレターに書いてありますので、ご覧ください。

また、この冬はスタッフ皆で、しつけ専門の先生を招いて“しつけ”の勉強をしました。診察中、しつけの相談は多いです。的確なアドバイスが来ているのか常に思っていました。今後、しつけ教室（パピースクール）が出来たらよいかと考えています。病院のお知らせ、情報等はホームページでお知らせしていきます。

予防の季節になりました。防げる病気は予防していきましょう。ささいなことでも構いませんので、ご相談下さいね。



春です！ 予防が始まりますよ

フィラリア

ノミ・マダニ

狂犬病予防



ワンちゃん

フィラリア予防には、例年どおり錠剤タイプのもと、お肉の固まりチュアブルタイプのもを用意しています。

投薬の前に血液検査を行います。

ノミ・マダニの予防には、フロントラインスポット（首筋につける液体）を用意しています。

狂犬病の注射の時には、愛犬手帳と市からのハガキを持参して下さい。



家ではおとなしいけど、病院に来ると怒ってしまうワンちゃんは、お家から口輪をしてくるのもいいかもしれませんね。写真のように、プラスチック製の口輪が苦しくなくて安心です。市販でも購入できますし、当院にも置いてありますのでご相談下さい。



ネコちゃん

フィラリア・ノミ・ミミヒセンダニ（耳ダニ）・回虫（おなかの虫）の4つが予防できるレボリューションという首筋につける液体を用意しています。

（ワンちゃんにも同様のお薬はありますが、フィラリアの感受性が高いことで確実に服用させる飲み薬にしています）

ノミ・マダニの予防だけでよいという方は、従来どおりフロントラインスポットも用意していますので、ご相談下さい。



フェレット

ネコちゃん同様にレボリューションを使用しています。チュアブルタイプ、粉薬も用意していますので、ご相談下さい。

例年、土曜日の診察は組み合わせます。平日（特に午前中）にご来院いただくと、比較的スムーズに診察ができると思います。

What
動物の病気

てんかん



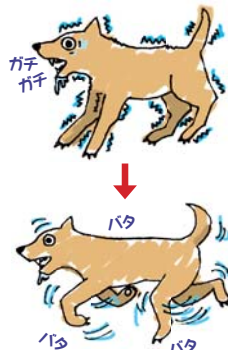
最近「てんかん発作」で来院するワンちゃん（まれにネコちゃん）が多いです。突然手足をバタつかせ、口からアワを吹いたりするので飼主さんは驚いてあわててしまいます。ただ「てんかん発作」の場合、2～3分程度のことが多く来院した時には、普段と変わらない状態に戻っていることが多く、飼主さんもきつねにつままれたような気分になります。今回は、「てんかん」についてお話しします。

「てんかん」ってどんな病気？

脳の中では、規則正しいリズムの電気が微量に流れています。「てんかん」とは、脳内に突然異常な電氣的興奮が起こり、脳の神経細胞がショック状態になってしまう事で起こります。てんかんが起こると、脳からの命令が通常通りいなくなり、意識を失ったり体がけいれんを起こしてしまう状態が続きます。犬ではおよそ100頭に1頭、猫では100頭に1頭以下の発生率と言われています。

どんな症状を起こすの？

「てんかん発作」の症状も様々です。最も多いのが、初めに全身（特に前足と後足）がピンと伸びて、横転し足や口をガタガタと震わせます。その後、手足をバタつかせ、犬かきをして泳ぐような動きが続きます。この時、動物には意識がなく、目の瞳孔は開き、失禁したり排便したり、口から泡を吹いたりします。時間的にはすごく長く感じられますが、2～3分ぐらいの事が多いです。この状態が終わるとケロッと普通の行動に戻ります。なかには、しばらくもうろうとした状態が続いて、だんだん普通の状態に戻る事もあります。発生頻度も様々で、月に1度、数ヶ月に1度、1年に1度の子もいれば、1日に何度もいう場合もあります。



「てんかん」が起こったらどうすればいい？

「てんかん発作」の最中に飼主さんは、どうしてもパニックになります。慌てて体に触れようとしますが、てんかんを起こしている最中は、その子自身も意識がない為、飼主さんの手を咬んだりする事があるかもしれません。手足をバタバタしていても、体に手を添えてあげる程度で無理におさえなくて下さい。そして、周りにぶつかって倒れる物がないかぶつかる様なところはなにか、周りの安全を確認して下さい。

「てんかん」検査は？

「てんかん」を診断するための検査はありません。脳の神経細胞を壊すような状態（外傷、ウイルス疾患、腫瘍など）がないかを、血液検査、X線検査、必要に応じては、CT検査やMRI検査（当院にはないので他病院を紹介）を行っています。考えられる原因を除外していき、異常が見つからない場合、原因不明の「原発性てんかん」という診断になります。

「てんかん」と診断されたら？

原因がはっきりしているてんかんには、原因に適切な治療が必要となります。しかし実際「てんかん発作」で多いのが、原因不明の「原発性てんかん」です。この場合は、いかにてんかん発作を抑えるかが治療の基本となります。てんかんを抑える「抗てんかん薬」を服用していくことになります。発生の頻度をみながら、服用を始めいきます。飼主さんとじっくり話をし、服用のスタートを考えていきます。

普段の生活をよく観察して、早期発見を心がけましょう。

皮膚病～心因性脱毛



脱毛とは、飼主さんから見てもすぐわかる病気です。それは、皮膚の病気や身体の内外部からの刺激が原因で起こるものがほとんどですが、それとは全く関係ないことが原因で起こる脱毛もあります。それが、「心因性脱毛」です。

なぜ起こる？

何か心理的な変化があったときに、それがストレスや不安となり起こる病気です。精神的変化から毛細血管が収縮し、血行が悪くなることで毛が抜けてしまいます。また、いつもより強く尾を咬んだり、必要以上に足をなめたりすることで起こります。ネコちゃんの場合は、ザラザラした舌で過剰な毛繕いによって起こります。

原因は？

ストレスを起こす原因として

- 飼主さんが忙しくてあまりかまってくれない
- かわいがってくれた人が近くにいないくなった
- 新しいワンちゃん・ネコちゃんを飼うことになった
- 外に出ていたネコちゃんが、外に出してもらえなくなった
- 散歩の時間が短くなった

など、その子が不安や不快に思うことが続いたりする事が原因としてあげられます。

診断は？

脱毛の原因となるアレルギー・細菌感染・ホルモン障害・寄生虫・カビなどが発見されない場合に、「心因性脱毛」と診断します。飼主さんから、脱毛が起こり始めた頃に、環境の変化がなかったか、ストレスを受ける事がなかったかを考えてもらいます。思い当たる事があれば、それが脱毛を治療する上で大きな手がかりとなります。

症状は？

毛が抜けて“脱毛”の症状です。他の皮膚病とは異なり、毛が毛根から根こそぎ抜ける事が多いため、きれいな皮膚が露出した状態が多いです。しかし、なめ続けている場合は、口の中の細菌が原因で赤くなったり皮膚炎を起こす事もあります。



治療は？

一番の治療は、ワンちゃん、ネコちゃんの不安・ストレスを取り除いてやることです。しかし、なかなか思いつく事は難しいです。原因を見つける方法として、よくなめている時間帯を知り、その前後の家族の行動を記録していくと、何か発見できるかもしれません。

皮膚病の中でも「心因性脱毛」は、そのままにしておいてもいつの間にか治ってしまうケースがあります。しかし、原因がわからないままなので、また再発するワンちゃん、ネコちゃんがほとんどです。動物は、思っている以上にデリケートなのです。